日本における女性運動に対する日本人大学生の認識、その目的と社会的影響

アナタシャ・アグイレ、アリーシャ・ロマノ、ジョン・ウェブスター

カリフォルニア州立大学モントレーベイ校

要旨

近年の女性運動は世界のメディアから注目されており、さまざまな地域で起こっているにもかかわらず共通の問題に直面しているためか、多くの目標は非常に類似している。若い世代によるSNSの利用は、女性運動が身近な日常生活へと浸透し、ジェンダーの役割に対する認識が社会全体で変化し始めている。この研究では、日本の現代の女性運動として、＃ミートゥ運動、＃クートゥー運動、フラワーデモ、女性行進に焦点を当てた。これらの運動の目標は、社会に様々な影響を与える可能性があり、社会を支えるそれぞれの人々に異なる影響をもたらす。私たちの研究では、近年の女性の動きが学生の市民参加にどのように影響しているか、学生のジェンダーの役割に対する認識、又学生の行動や意見がどのように変化しているか、およびその理由を追求するために、86名の日本人大学生を対象に調査を行った。調査の結果、日本の大学生の大多数は、女性運動に参加していない、又その運動についてよく認識していないにも関わらず、女性運動を支持していることが分かった。さらに、ジェンダーの役割に対して未だにいくつかの理想を持っているが、ジェンダーに基づく労働や服装規定を信じておらず、誰も自分の意見に影響を与えていないと感じている学生も多数いた。さらに、男子学生は女性運動についてより意識しており、女性の権利の問題に関する意見に深く影響しているということも分かった。日本の女性運動は大学生の生活の中でより重要になりつつあり、彼らが持つジェンダーに関する問題の見方に影響を与えていると言える。

はじめに

この研究で私たちは日本人大学生の日本の女性運動に関する認識および意識について調査した。調査では＃ミートゥ運動、＃クートゥー運動、フラワーデモ、女性行進に焦点を当て、近年の女性の動きが学生の市民運動参加にどのように影響しているか、学生のジェンダーの役割に対する認識、又学生の行動や意見がどのように変化しているかについて調査を行った。その結果日本の女性運動は大学生の生活の中でより重要になりつつあり、彼らが持つジェンダーに関する問題の見方に影響を与えていることがわかった。

1. 研究の重要性

近年、世界中で女性の社会進出が盛んになってきている。SNSで現代の女性運動について知るようになった。日本人大学生がどのように女性の社会進出について考えているか、また日本人の大学生の生活にどのような影響があるのかについて理解したいと考

えた。最近の女性運動は女性に対する男性の態度にどのように影響するかについて興味が出てきた。この卒業論文を通して、アメリカと比較して日本で働く女性の問題についてより広い知識を得、他の人々と共に女性の運動と女性の権利の重要性について考えてみたい。

2. 研究質問

1.) 近年の女性運動は大学生の市民活動への参加にどのように影響しているか。
2.) 現代社会における男女の役割の変化を大学生はどのように捉えているか。また彼らの考え方にどのような影響を与えているか。
3.) 女性運動は大学生にどのような影響を与え、彼らの行動にどのような変化をもたらしているか。

3. 研究背景

3.1「女性運動」とは何か

江藤（2005）によると、女性運動とは「日本の女性運動は様々な思想、組織の規模や行動を表現します」である。女性運動は主に女性によって広がり、女性の生涯においてポジティブな影響を及ぼす事を目的としている。この影響は経済的、政治的、又は権利に関する物と言える（江藤、2005; Enloe、2014)。

3.2 日本の女性運動の歴史

明治時代は1868年から1912年である。1890年、女性は政治集会に出席することができなかった。女性は記事や請願書を書いて政治に参加し、「青鞜」という雑誌で、フェミニストが議題に上がった。1870年、中絶を犯罪とする法律が制定され、女性の作家が雑誌で反対を訴え続けた（Mackie、 2013)。小学校においては男女両方の教育が義務付けられていたが、高等教育では、母性教育にあまり重視していなかった（Patessio、2013)。これは、1990年以前の日本の女性運動の歴史である。1947年、アメリカの占領下で女性は投票権を得て、平和運動において大きな役割を果たした。女性グループは、より安価な食糧のために活動を広げ、職場でより多くの女性が必要とされた。これらの運動のほとんどは母親としての女性の役割に焦点を当てていた（江藤、2008)。

次に、現代の女性運動である。現代の女性運動 は1990年から現在までを示する。江藤（2008）によると、女性運動は以下の5つである。1つ目は、ドレスコードに関する勤務先との確執。2つ目は、勤務先と通勤電車におけるセクハラに注意を向ける。3つ目は、レイプと婦女暴行における法律改正について。４つ目は、女性グループによる非武装化に取り組むための努力、５つ目は、第二次世界大戦下の慰安婦賠償問題である。

3.3 日本政府の取り組み

日本政府の取り組みの一つであるウーマノミクスについて説明する。安倍 晋三政権の下で、2013年に制定された女性が働きやすく、経済成長に貢献する政策を意味する。より多くの女性が働いているが、彼女らは不安定な立場にある。現在の安倍内閣には女性閣僚は1名しかおらず、安倍政権は女性が子供を産んで国のために働くことを望んでいるが、働く母親が利用できる託児所サービスなどの女性に対するサポートはない（Schieder、2017)。次に、女性専用車両について説明する。満員電車で女性と子供たちに安全なスペースを与えるために作られた。試運転は2000年に始まり、本格的には2001年から実施された。女性専用車に対して否定的な見方と肯定的な見方の両方がある。ほとんどの女性専用車は特定の時間にのみ有効である。法的な観点から、コンプライアンスは必要ない（堀井、2012)。現代の女性運動：司法制度について説明する。日本には26万400名の警察官が存在し、約9%の2万3千400名が女性警察官である。また、2万8千400名の警察署職員がいる。そのうち約46%の1万3千名が女性職員だが、職員は供述書を作成することができない（National Police Agency、2018)。2018年に女性弁護士は全体の19%に過ぎなかった。この数字は過去５年間で減少し続けている3.4 現代の女性運動の目的（日本弁護士連合会、2018)。

3.4 現代の女性運動の目的

次に、現代の女性運動の目的：路上でのデモである。東京フラワーデモンストレーションにはレイプと性的暴行に関する法律に反するデモンストレーションがあった（フラワーデモ、2019)。これは、自分の娘をレイプした男性の事件から始まった。しかし、第一審では娘が拒んだと言う証明がない為、男は起訴されなかった。この判断は第二審でくつがえされた。性的暴行を経験した女性のためにより安全な保護と、書類送

検に関する改正手続きが必要になる（滝口、上野、2019; The Japan Times, 2020)。 抗議は東京を超えて拡大している（フラワーデモ、2019)。現代の女性運動の目的、特に路上でのデモについて説明する。女性達の行進は女性の権利と男女共同参画のための行進である。自分の身体に対する自主権とジェンダーの格差や権力に対する抗議である。また、女性のより広い政治的関与に関して主張し、最初の行進は世界中の女性によってオンラインで計画され、現在、「国際女性の日」にほとんどの国で行進が行われている（Women's March、2019)。

次に、SNSでの発信である。＃クートゥの意味は「靴」と「苦痛」から来ている。性差別による職場の服装規定に対する反論で、一般的女性がよく使用するSNSで注目された（石川, 2019)。＃ミートゥはセクハラや性暴力に対する論争で、有名な女性が主に使用するSNSで注目され、一般女性にも広がっている（Me Too Movement、2019)。では、次に、現代の女性運動は日本の＃ミートゥ運動である。ジャーナリストの伊藤詩織は放送記者の山口敬之に性的暴行を受けたと主張した。警察に報告書を提出しようとしたが、反対され、彼女がその件について追求しようとした所、告訴は取り下げられた。その後メディアに訴えたが、極端な反発に直面した。日本の性的暴行に関する法律の改正と否定的な慣習に注目を集める方法として、始まった（伊藤、2017)。そして、現代の女性運動の目的について説明する。伊藤詩織の「ブラックボックス」という著書がある。これは伊藤詩織が直面した闘いと個人的な経験を記した著書である。法律が女性の発言を防たげる証言や女性警察官に報告する際に感じた彼女の無力さについて語っている。また、犯罪を報告するプロセスは屈辱的であったと述べている（伊藤, 2017)。

3.5 現代の女性運動への参加

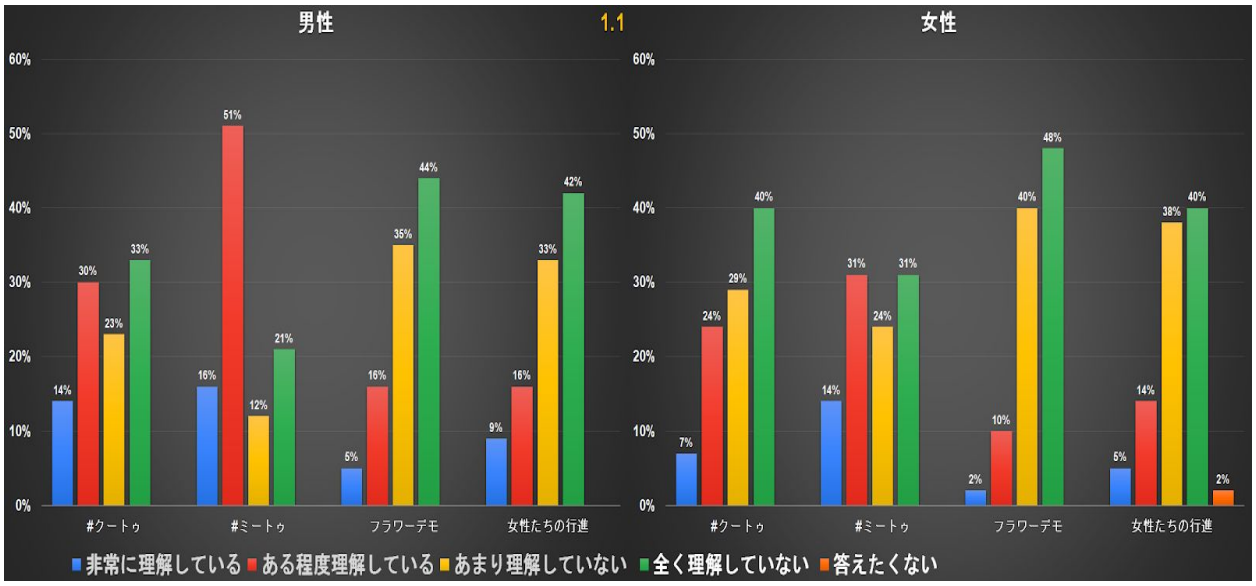
最後に、第一回目の東京フラワーデモンストレーションには約300名の男性と女性が参加した（滝口, 上野, 2019)。さらに、日本で最初に行われた女性の行進は450名の人々が東京の様々な箇所で行進した（後藤, 2019)。東京フラワーデモンストレーションにも女性の行進にも女性問題に対する国際的および国内的な注目が向けられた（フラワーデモ, 2019)。

4. 研究方法

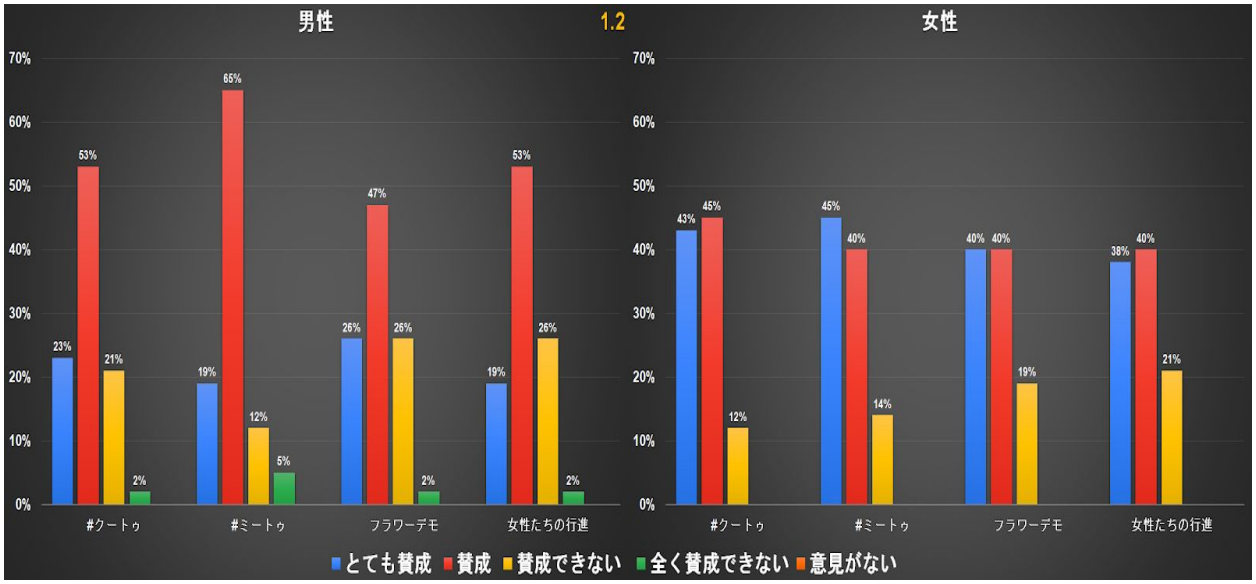
私達が行ったアンケート調査の研究結果について説明する。この調査には86名の日本人大学生に参加してもらいった。参加者は男子大学生43名、女子大学生42名と精査流動性ジェンダー1名だった。グーグルフォームを使ってデータを集めた。

5. 結果

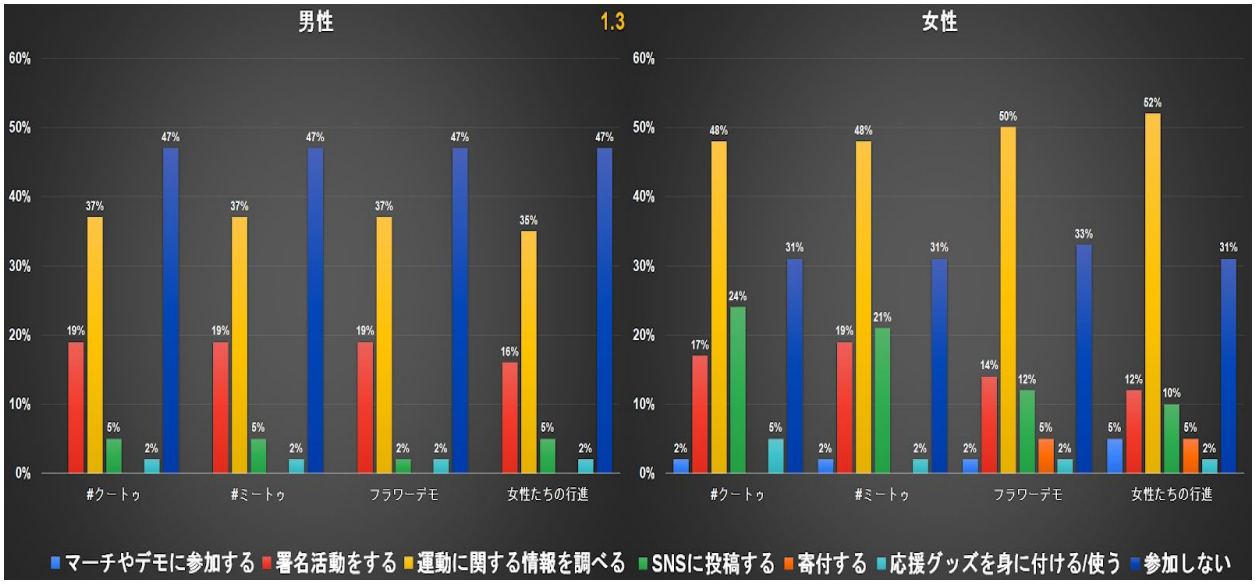
5.1 研究質問1: -近年の女性運動は大学生の市民活動への参加にどのように影響しているか。



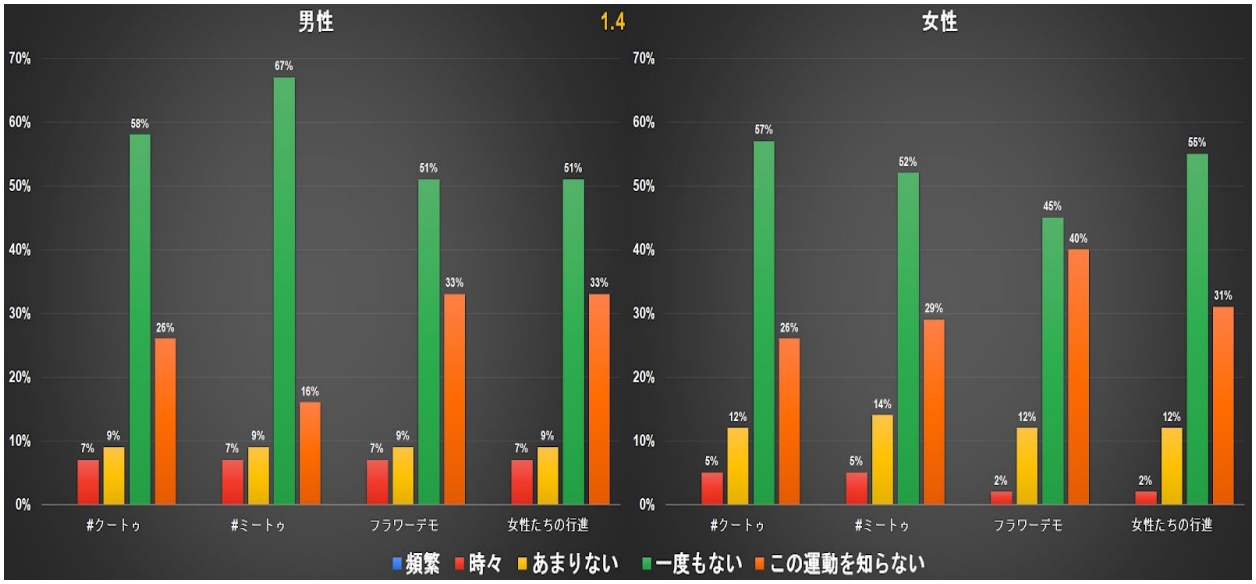
まず、「下記の女性運動についてどの程度理解しているか」という質問に対して男子学生の67%と女子学生の45%が＃＃ミートゥ運動を知っていると答えたが、＃クートゥ、フラワーデモ、女性達の行進についてあまり知らなかった事がわかった(図1.1参照)。



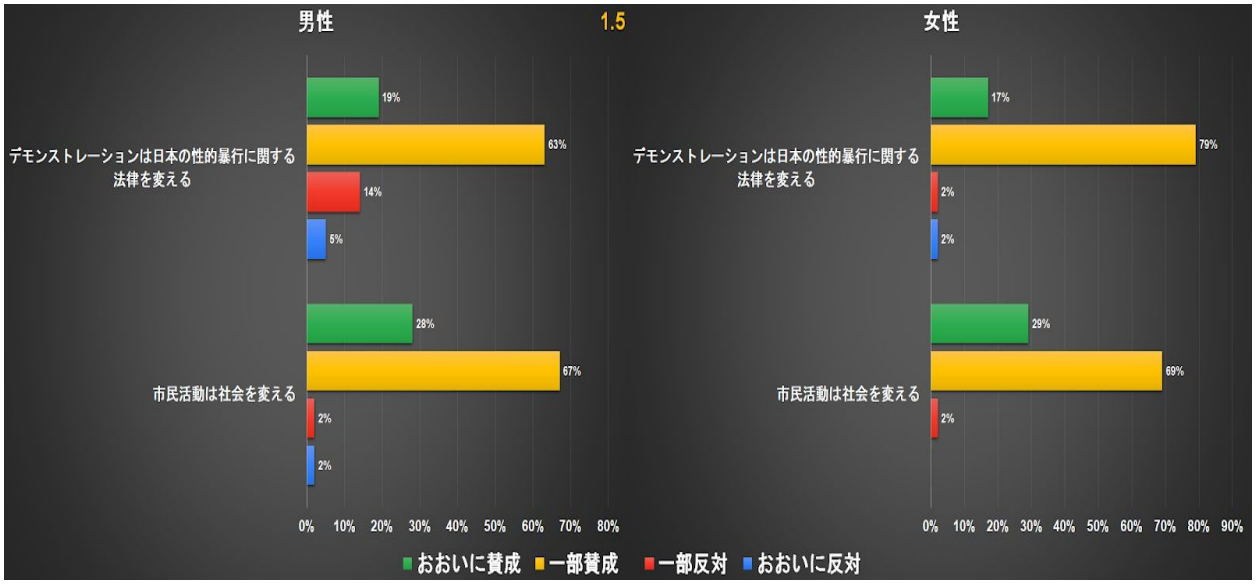
そして、「下記の女性運動についてどう思うか」という質問には、ほとんどの学生が女性運動に好意的な気持ちを持っていると答えたが、女子の約4割と男子学生の約2割が、強くそう思っている事がわかった(図1.2参照)。



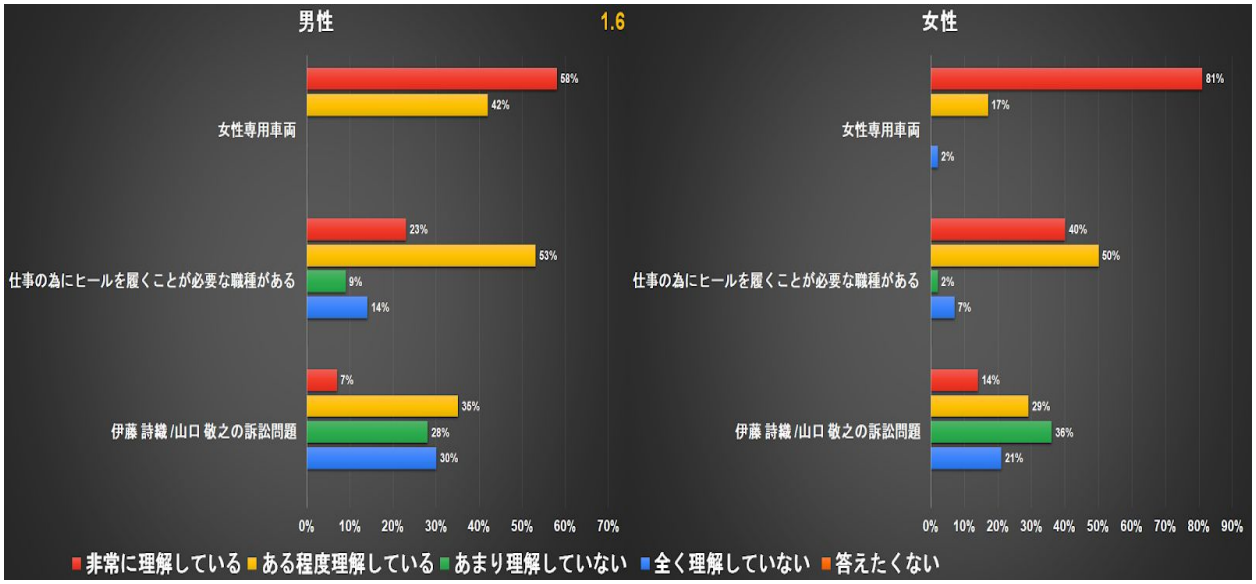
次に、「下記の女性運動にどのように参加するか」という質問に対して、男子学生の47%と女子学生の31%が参加しないと答えた。男子学生の37%と女子学生の48%が運動に関する情報を読んでいると答えた(図1.3参照)。



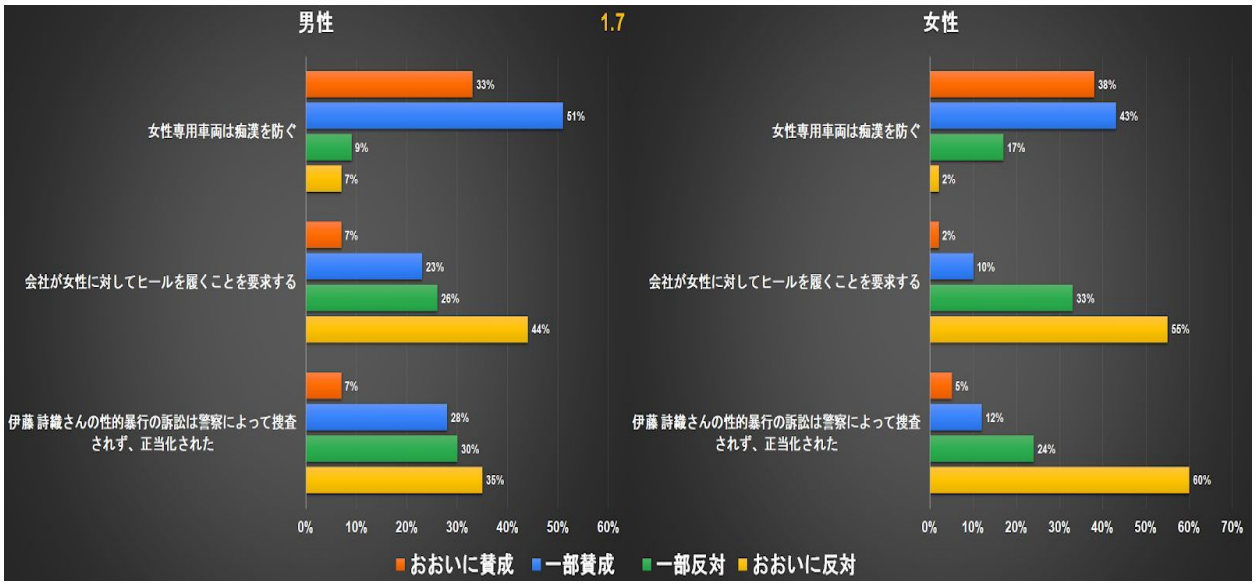
さらに、「下記の女性運動にどのくらいの頻度で参加するか 」という質問には、大多数の大学生は男女共に、＃クートゥ、＃＃ミートゥ、フラワーデモと女性達の行進にも参加していないと答えた(図1.4参照)。



また、「市民活動に対する見解」という質問には、女子学生と男子学生の約9割が、「市民活動は社会を変える事ができる」と答えた(図1.5参照)。



「下記の状況に対し、どの程度知っているか」という質問に対して大多数の大学生は男女共に伊藤詩織の性的暴行訴訟についてあまり知らなかったが、ほとんどの男女の大学生共に女性専用車両についてよく知っていた。男子学生の76%と女子学生の90%がヒールに関する服装規定についてよく知っていると答えた(図1.6参照)。



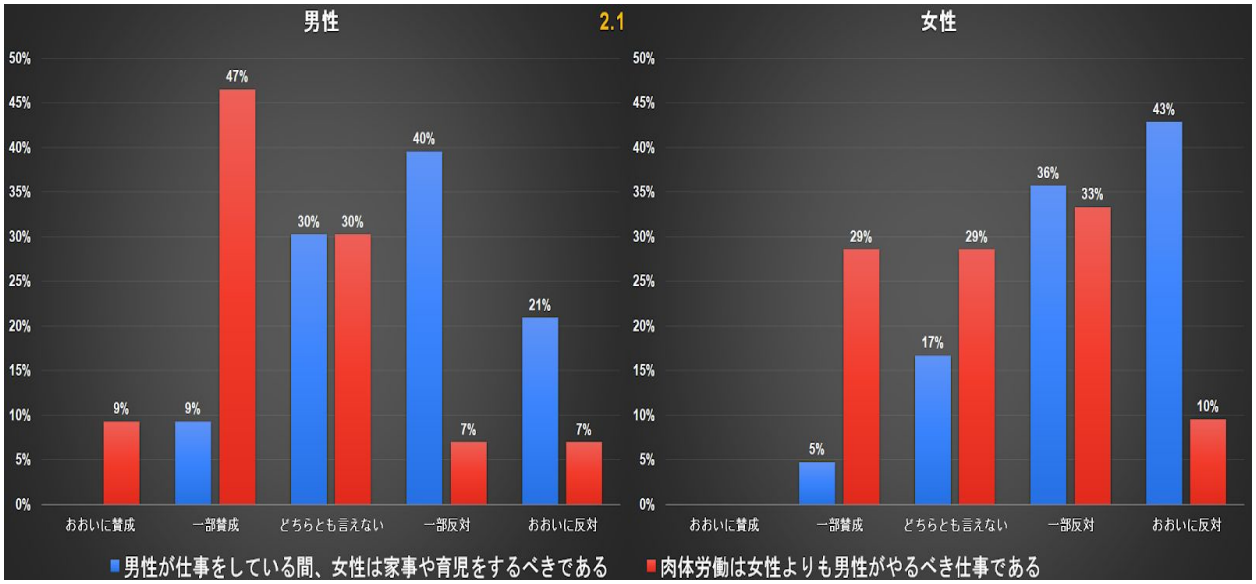
最後に、「伊藤詩織、ヒールの服装規定、女性専用車両に対する見解」という質問には、男子学生65%と女子学生84%が、伊藤詩織の「性的暴行を捜査しなかったこと」と、男子学生の70%と女子学生の88%が「ヒールの服装規定」に反対している。男女の

大学生共に約8割が「女性専用車両は痴漢を防ぐ」ことに賛成しているようだ(図1.7参照)。

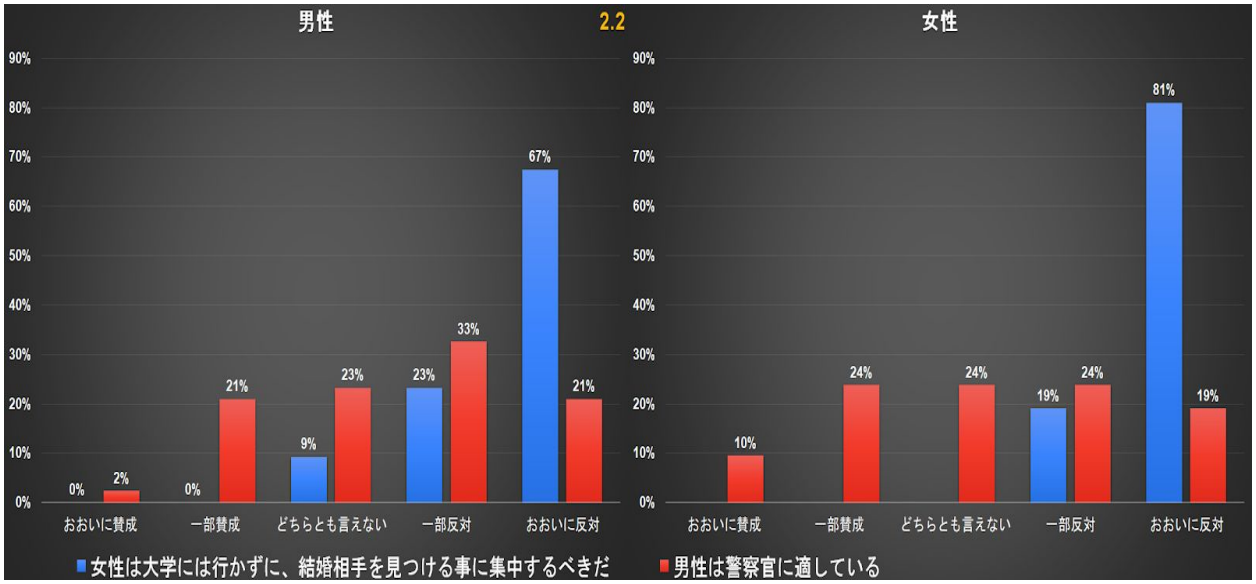
5.2 研究質問1のまとめ

女子大学生より男子大学生の方が女性運動により馴染みがあるが、女子学生はその運動に対してより強い肯定的な感情を持っている。女性運動とその目標に関する知識は、SNSによる影響が大きいと言える。ほとんどすべての男女の大学生が社会の変化に市民参加が必要であると感じている。大多数の男女の大学生は女性運動に物理的に参加していないが、意識と知識を習得したいという欲求が高まっているようだ。

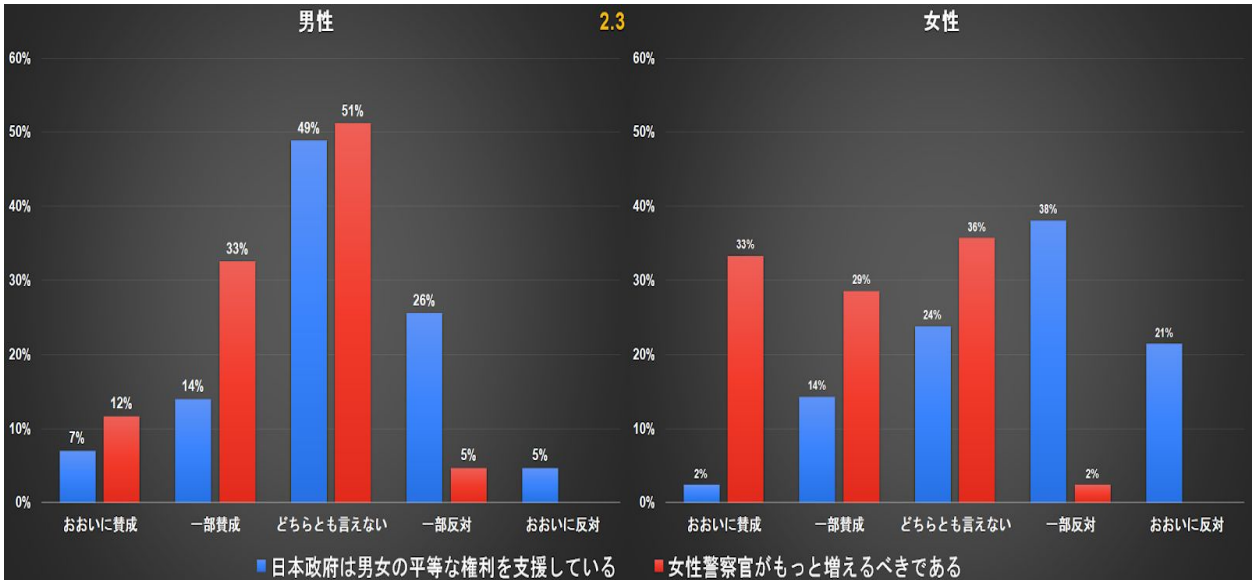
5.3 研究質問２: 現代社会における男女の役割の変化を大学生はどのように捉えているか。また彼らの考え方にどのような影響を与えているか。



まず、「家事・育児と肉体労働に関する見解」には、79%の女子学生と61%の男子学生が「女性は家事や育児をするべきである」という意見に反対で、過半数の男子学生が「肉体労働は男性がやるべき仕事」に同意した(図2.1参照)。

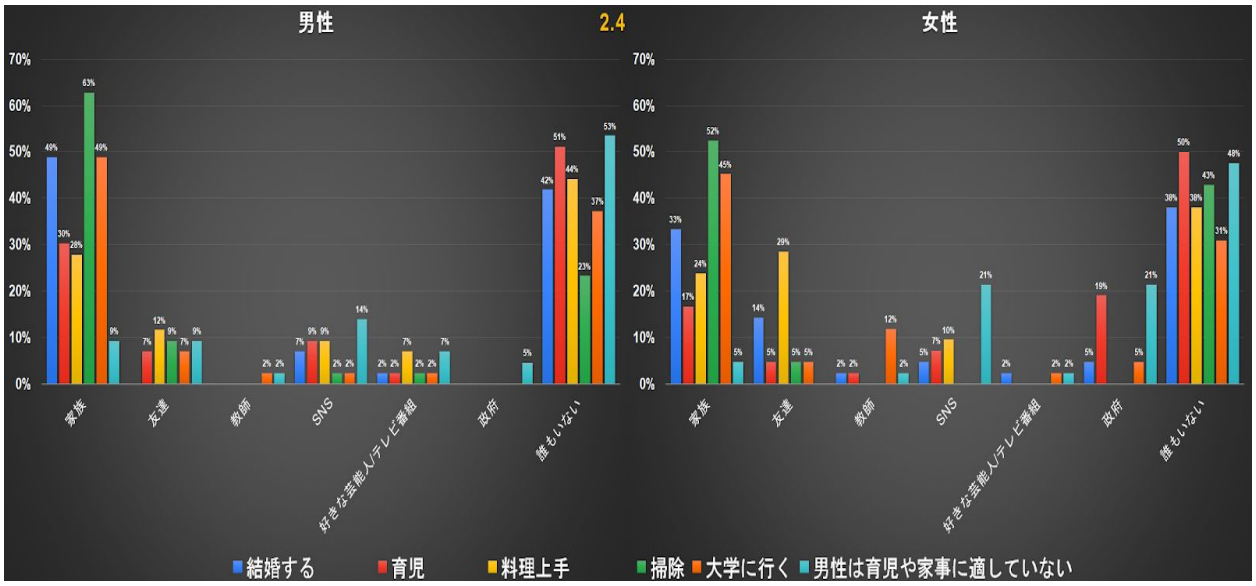


次に、「大学進学と警察官に関する見解」についての質問には、過半数の学生は男女とも、「女性は大学に行かず結婚相手を見つけることに集中すべき」という意見に反対し、ほとんどの学生は男女共に、「女性は大学に行かず結婚相手を見つけることに集中すべき」という意見や、男子は女子より「男性は警察官に適している」という意見に反対している(図2.2参照)。

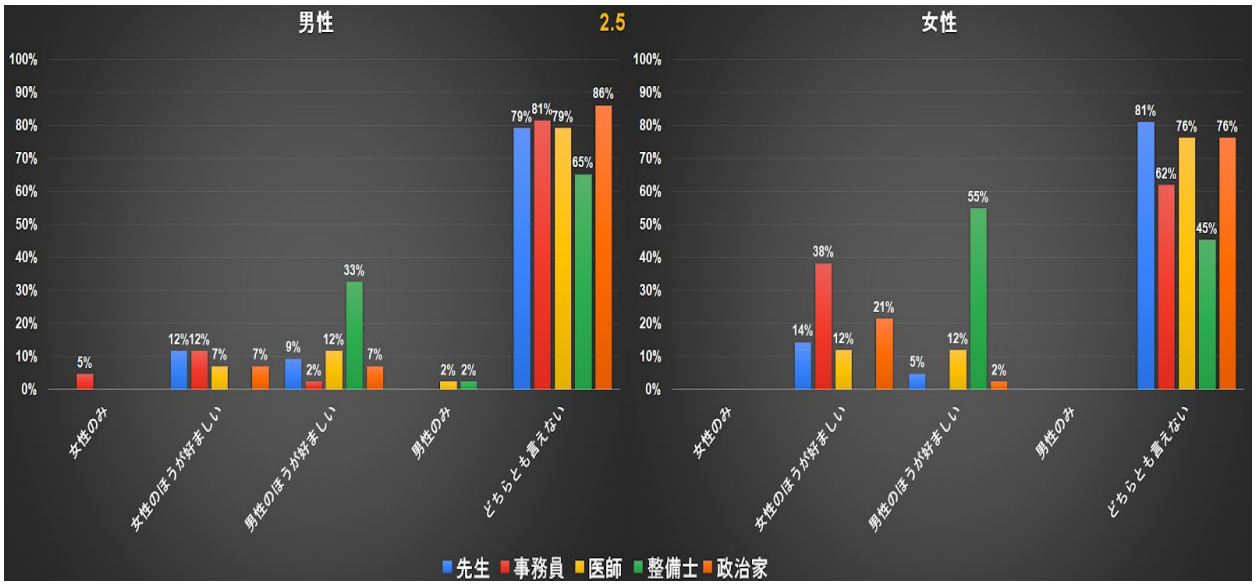


最後に、「日本の政府と女性警察官に対する見解」についての質問には、男子学生は「日本政府は男女の平等な権利を支援している」という項目には中立の立場を取り、女

子学生は反対が多かった事がわかった。大多数の女子学生は「女性の警察官が増えるべきだ」という意見に賛成しているが男子は中立が多かった(図2.3参照)。



「以下の項目であなたに『最も』圧力をかけるのは誰だか」という質問には、大多数の学生は、「誰の意見にも圧力を感じない」が、「清潔な生活環境を保つ事と大学に行く事に関しては家族の意見が影響する」と答えた(図2.4参照)。



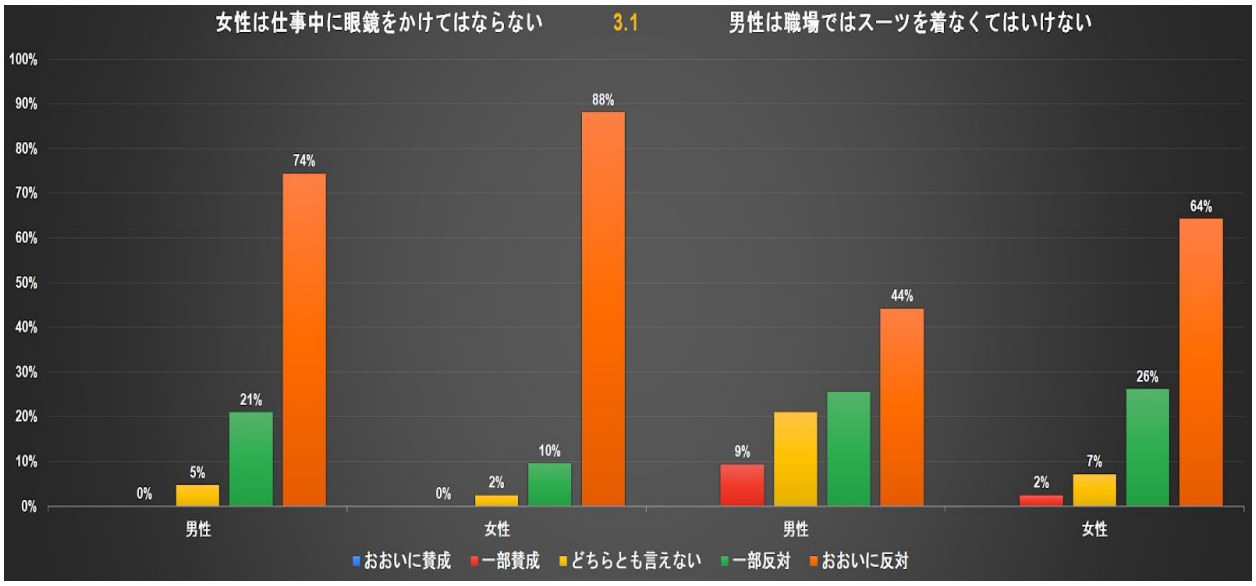
「以下の職業に対して、適していると思う性別はどちらだと思うか」という質問には、ほとんどの男女共に職業は性別にとらわれないと考えているが、半数以上の女性は男性

は整備士に、また38%の女子と33%の男子が女性は事務員に適していると答えた(図2.5参照)。

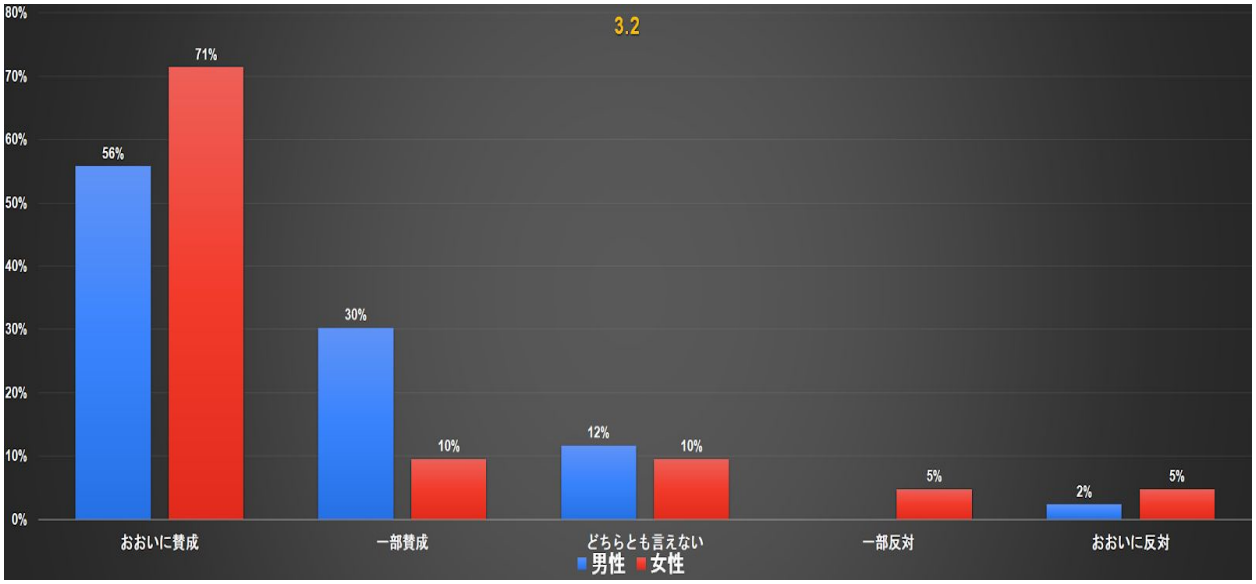
5.4 研究質問2のまとめ

大半の女子大学生と男子大学生はジェンダーに対するステレオタイプがないと言えるが、いくつかの職業については女子学生の方が男子学生よりステレオタイプを持っていると言える。男女共に、女性は男性と同等の機会が与えられるべきだと考えている。大半の大学生が男女共に、ジェンダーに対する意見は誰の影響もうけていないと答え、この事は学生たちが持っている性別に関するステレオタイプは彼らの経験によって形成されると言えると思う。

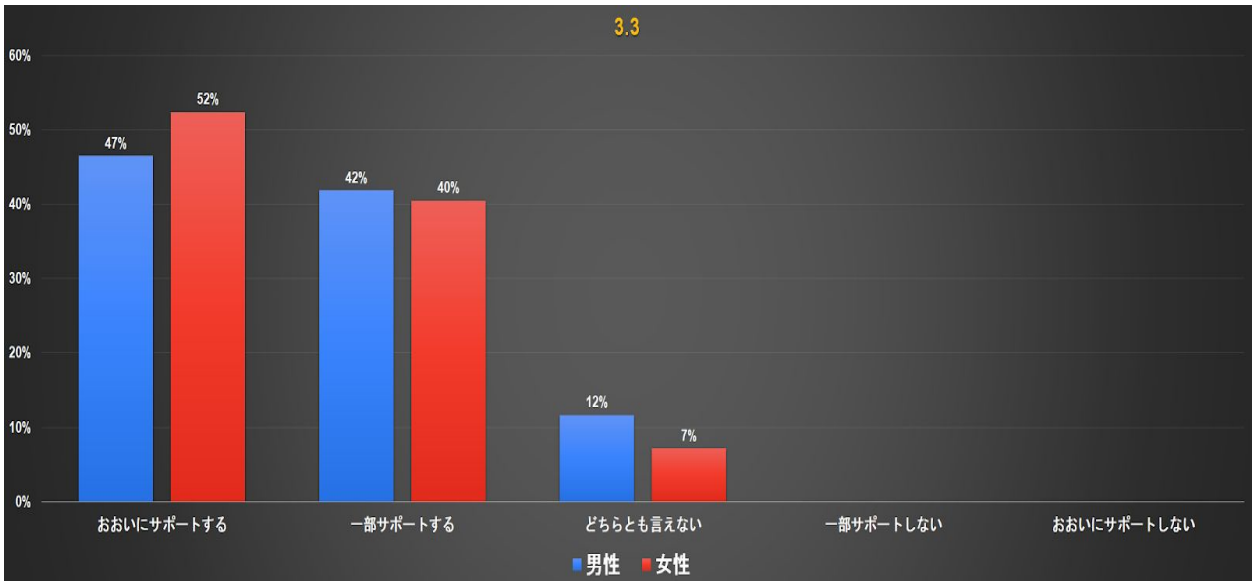
5.5 研究結果３: -女性運動は大学生にどのような影響を与え、彼らの行動にどのような変化をもたらしているか。



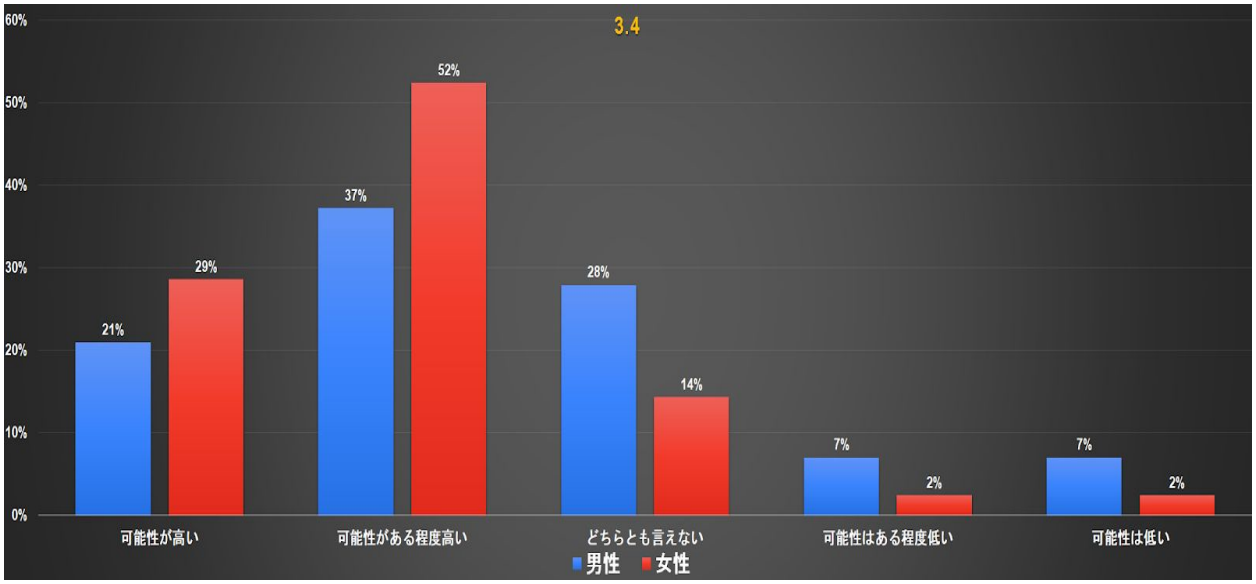
まず、「次の性別のドレスコード（服装規定）の例に同意しますか」という質問に対して、ほとんどの大学生は性別によるドレスコードに反対しているが、約1割の男子学生は「男性はスーツを着なくてはいけない」と答えた(図3.1参照)。



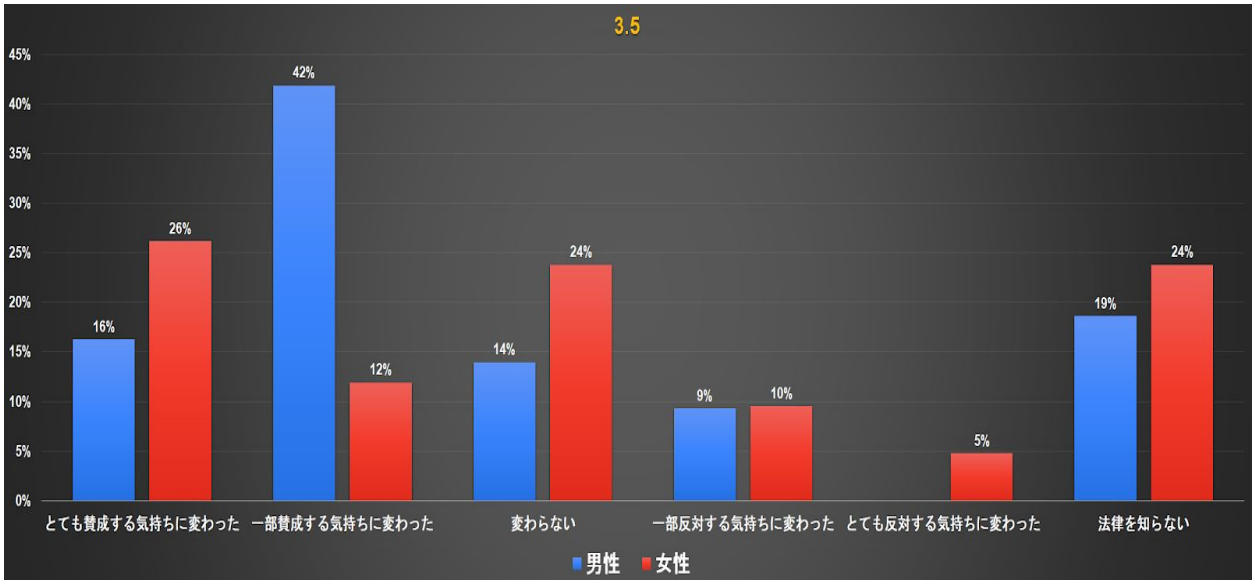
次に、「性別によるドレスコード（服装規定）を廃止する会社に賛成だか、反対だか。」という質問に86%の男子学生と81%の女子学生は賛成だと答えた(図3.2参照)。



そして、「性的暴行を受けたと主張する人をどの程度サポートするか。」という質問には、全ての大学生はサポートすると答え、サポートしないと答えた学生は誰もいらなかった(図3.3参照)。



また、「女性の社会進出がより一般的になりつつある今、女性運動に関するニュースを検索したりフォローしたりする可能性があるか。」という質問に対して58%の男子学生と81%の女子学生が可能性があると答えた(図3.4参照)。



最後に、「＃＃ミートゥ運動とフラワーデモにより、性的暴行に関する日本の法律に対するあなたの意見はどのように変わったか。」という質問には、58%の男性と38%の女性は賛成する気持ちに変わったと答えた(図3.5参照)。

5.6 研究質問3のまとめ

大多数の大学生は男女共に、性別による服装規定に反対しており、会社はそれらを排除する必要があると感じている。女性運動の人気は年々高まって来ているため、大学生は女性運動を指示する可能性が高いかもしれない。ほとんどの大学生は性的暴行を受けた女性をサポートすることを支持している。一方で、学生の約4分の1は日本の性犯罪に関する刑法についての認識が低いだ。最近活発になって来た女性運動により、男子学生の「女性の権利」に対する見解がより肯定的に変わった。

6. 結論

調査結果によると、日本の男子大学生は、性別の役割の変化により、これらの運動とその影響に関する情報を求めるようになったため、運動に馴染みがある可能性がある。女子大学生は、女性運動に参加していないもしくは、運動についてよく知らないにもかかわらず、経験によりこれらの女性運動を強く支持している。日本の大学生が女性運動に興味を持ち、積極的に社会に変化を与えるめに参加している。日本の大学生はSNSで参加しているのだが、女性運動には物理的に参加していない。この行動は新しい世代による「参加」を意味しており、私達の調査ではSNSでの参加を、日本の大学生は具体的な活動として解釈していると思う。それから、大学生が問題を読んで話し合っているという事実は、社会の変化に参加したいという欲求を示していると思う。一部の大学生は、まだ性別による理想を持っているが、性別による労働や服装規定を支持せず、自分の意見に影響を与える人がいないと感じる男女の大学生は多数いた。つまり、学生の性別による見解は自分の経験とSNSで作られている。ニュースとSNSで取り上げられている女性運動は、日本の大学生は男女共に運動の目標についてより知りたい、そして女性の権利を支持したいと思っている大きな要因となっている。日本の女性運動は大学生の生活において男女を問わず重要な問題について学ぶ機会となり、女性の権利問題に対する男子大学生の意識を大きく変えていると言える。

7. 研究の限界点と将来の研究課題

最後にこの研究の限界点と将来の課題について説明する。調査対象の男女の大学生共に女性運動についての知識が限られているため、彼らの見解を完全に把握することは困難だった。性別の理想に関する情報は、賛成の有無だけではなく、なぜ彼らが同意

したり反対したりしたのかを尋ねれば、もっと多くの情報を得ることができたと思う。将来的には、社会人に服装規定があるかどうか、またその規定に関しての見解を尋ねることは、特に性差別的な服装規定の認識との関連で有益だと思う。

参考文献

Adachi, T. (2013). Occupational Gender Stereotypes: Is the Ratio of Women to Men a Powerful Determinant? Psychological Reports, 112(2), 640-650.

Arima, Akie N. (2003). Gender stereotypes in Japanese television advertisements. Sex Roles: A Journal of Research, 81.

Ayako Kano. (2018). Womenomics and Acrobatics: Why Japanese Feminists Remain Skeptical About Feminist State Policy. Feminist Encounters: A Journal of Critical Studies in Culture and Politics, 2(1), Feminist Encounters: A Journal of Critical Studies in Culture and Politics, 01 March 2018, Vol.2(1).

Corry, B. (2018, June 4). Let's discuss the lack of female leaders in Japan. Retrieved October 29, 2019, from https://www.japantimes.co.jp/life/2018/06/04/language/lets-discuss-lack-female-leaders-japan/#.Xa-3hehKjIU.

CNBC. (2019, October 30). *Japanese Women Petition Against High Heels at Work with #Kutoo Movement Going Viral* . Retrieved October 30, 2019 from CNBC: https://www.cnbc.com/2019/06/04/kutoo-movement-japanese-women-petition-against-high-heels-at-work.html

Dalton, E. (2017). Sexual Harassment of Women Politicians in Japan. Journal of Gender-Based Violence, (2), 205-219. doi:http://dx.doi.org/10.1332/239868017X15099566627749

Eto, M. (2008). Vitalizing Democracy at the Grassroots: A Contribution of Post-War Women's Movements in Japan. East Asia: An International Quarterly, 25(2), 115–143. https://doi.org/10.1007/s12140-007-9029-5

Eto, M. (2005). Women's Movements in Japan: The Intersection Between Everyday Life and Politics. Japan Forum, 17(3), 311–333. https://doi.org/10.1080/09555800500283810

Enloe, C. (2014). Bananas, beaches and bases: Making feminist sense of international politics(Second edition,Completely revised and Updated. ed.). Berkeley, CA: University of California Press.

Flower Demo. (2019, November 12). *Flower Demo*. Retrieved November 12, 2019 from https://www.flowerdemo.org

Goto, Y. (2019, March 9). *Women's March Tokyo Calls for End to Gender Discrimination, Violence*. Retrieved December 18, 2019, from The Mainichi: https://mainichi.jp/english/articles/20190309/p2a/00m/0na/012000c

Hillstrom, L. (2019). The #MeToo movement (21st-century turning points). Santa Barbara, California: ABC-CLIO.

Horii, M., & Burgess, A. (2012). Constructing sexual risk: 'Chikan', collapsing male authority and the emergence of women-only train carriages in Japan. Health, Risk & Society, 14(1), 41-55.

Ito, M. (2015, October 3). Women of Japan unite: Examining the contemporary state of Feminism. Retrieved October 29, 2019, from https://www.japantimes.co.jp/life/2015/10/03/lifestyle/women-japan-unite-examining-contemporary-state-feminism/#.Xa-ws-hKjIU.

Ishikawa, Y. (2019). *#KuToo: 靴から考える本気のフェミニズム*。東京：現代書簡。

Japan Federation of Bar Associations . (2018). *White Paper on Attorneys* . Retrieved February 2,

2020, from Japan Federation of Bar Associations: https://www.nichibenren.or.jp/library/en/about/data/WhitePaper2018.pdf

Johnson, A. (2019). *Night in the American Village : Women in the Shadow of the U.S. Military Bases in Okinawa*. New York, NY: The New Press. Retrieved February 2, 2020, from http://search.ebscohost.com/login.aspx?direct=true&db=nlebk&AN=2088699&site=ehost-live

Kang, J. S. (2017). Evaluating Labor Force Participation of Women in Japan and Korea: Developments and Future Prospects. Asian Journal of Women's Studies, 23(3), 294–320. https://doi.org/10.1080/12259276.2017.1351589

Kaufman, J. P., & Williams, K. P. (2010). *Women and war: Gender identity and activism in times of conflict*. Retrieved February 2, 2020, from https://ebookcentral.proquest.com

Kyodo, J. (2020). Scrapping Acquittal, Nagoya Court Hands Man 10 Years for Raping Daughter. Retrieved April 23,2020, from https://www.japantimes.co.jp/news/2020/03/13/national/crime-legal/nagoya-acuittal-overturned-man-raped-daughter/#.XqHUUC-z10s

Mackie, V. (2013). GENDER AND MODERNITY IN JAPAN'S "LONG TWENTIETH CENTURY". *Journal of Women's History, 25*(3), 62-91,251. doi:http://dx.doi.org.library2.csumb.edu:2048/10.1353/jowh.2013.0036

Manzenreiter, W. (2013). No pain, no gain: Embodied masculinities and lifestyle sport in Japan. Contemporary Japan, 25(2), 215-236.

Me Too Movement . (2019, October 30). *Me Too Movement* . Retrieved October 29, 2019 from Me Too, Movement :https://metoomvmt.org

Molony, B. (n.d.). Women's Rights, Feminism, and Suffragism in Japan, 1870-1925 on JSTOR. Retrieved October 29, 2019, from https://www-jstor-org.library2.csumb.edu:2248/stable/3641228?sid=primo&origin=crossref&seq=1#metadata_info_tab_contents

National Police Agency . (2018). *Police of Japan 2018*. Retrieved February 2, 2020, from Police of Japan: https://www.npa.go.jp/english/Police_of_Japan/Police_of_Japan_2018_full_text.pdf

Nemoto, K. (2013). Long Working Hours and the Corporate Gender Divide in Japan. Gender, Work & Organization, 20(5), 512-527.

Patessio, M. (2013). Women getting a 'university' education in Meiji Japan: Discourses, realities, and individual lives. *Japan Forum, 25*(4), 556-581.

Sato, E. (2018). Constructing Women's Language and Shifting Gender Identity through Intralingual Translanguaging.(Report). Theory and Practice in Language Studies, 8(10), 1261–1269. https://doi.org/10.17507/tpls.0810.02

Schieder, C. (2017). Blood Ties: Intimate Violence in Shinzô Abe's Japan. World Policy Journal, 28.

Schieder, C. (2017, April 4). A "Necessary Evil"? Keeping Women Out of Medical Schools Won't Fix What Ails the Japanese Medical Profession | The Asia-Pacific Journal: Japan Focus. (n.d.). Retrieved December 4, 2019, from https://apjjf.org/2019/07/Schieder.html?fbclid=IwAR1nKMOJPZ6fg7_CLqUO6jdq0bMEbipkMlmJCc4Z7xma4XyCrSUANN5jCWI

Shigematsu, S. (2012). *Scream from the shadows : The women's liberation movement in Japan*.

Retrieved February 2, 2020, from https://ebookcentral.proquest.com
Takiguchi, N., & Ueno, H. (2019, October 30). *Monthly Rally Against Sexual Violence Spreads to 9 Cities* . Retrieved October 30, 2019,from The Asahi Shimbun: http://www.asahi.com/ajw/articles/AJ201906120046.html
Women's March. (2019, October 30). *Women's March* . Retrieved October 30, 2019 from Women's March: https://womensmarch.com/
Yamamoto, M., & Ran, W. (2014). Should Men Work Outside and Women Stay Home? Revisiting the Cultivation of Gender-Role Attitudes in Japan. Mass Communication and Society, 17(6), 920-942.
Yasutake, R. (2009). The first wave of international women's movements from a Japanese perspective: Western outreach and Japanese women activists during the interwar years. Women's Studies International Forum, 32(1), 13-20.
廣岡守穂. “ジェンダー平等の思想と戦後第二の文化変容.” Accessed October 29, 2019. https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=8264&item_no=1&page_id=13&block_id=21.
菜穂荒木. (2016). フェミニズム的活動における権力の獲得について. 女性学評論, 30, 1–19.
金谷千慧子. (1991). わかりやすい日本民衆と女性の歴史. 明石書店.
文藝春秋. (2017). ブラックボックス. 文藝春秋 .